

# 令和2年度在宅医療・介護連携推進事業取り組み（上半期）

令和2年度に入り全国的な新型コロナウイルス感染蔓延で取り組みに向けたミーティング開催が困難となり、事業推進活動がなかなか厳しい状況となりました。感染状況を鑑み、状況を踏まえながら出来る事を工夫して進めて行くこととなりました。

いちき串木野市医師会の役員改選が行われ、令和2年7月より在宅医療・介護連携推進事業推進委員長等も新たに変更されましたのでご紹介させていただきます。

在宅医療介護連携推進委員長 牧野 虎彦(牧野医院 院長)  
推進副委員長 福元 隆史(ふくもと整形外科・内科クリニック 院長)

## いちき串木野市在宅・介護連携推進事業推進委員長 就任あいさつ いちき串木野市医師会 副会長 牧野 虎彦

昨年12月中国武漢から始まった新型コロナウイルス感染症は瞬く間に、全世界を席卷し、人類は未曾有の災禍に見舞われております。

このような中、本年6月、花牟禮康生前推進委員長がいちき串木野市医師会会長に就任され、わたくし、牧野が推進委員長を引き継ぐこととなりました。

いちき串木野市では、2013年(H25)からのモデル事業を経て、在宅介護事業を推進し、当初、「チームトレプラ」・「チームCKH」・「お家に帰ろう班」で、課題を検討。資源マップ作製、広報誌への、在宅事業のチラシ配布、先進地への視察などの事業を行ってまいりました。令和元年より、上記3チームを発展的に解消し、推進チーム連絡会の中に、①歯・口腔ケア食のサポート ②看護管理者の集まり ③MCS ④交流研修 ⑤医療機関・介護関係機関の連携 ⑥いちき串木野版ACP ⑦お家に帰ろう班の、7作業グループを設け、協議していくこととなりました。より具体的に課題を検討、改善していくための工夫と思われれます。

現在、コロナ感染症蔓延の中で3密を避けるため、いろいろな会議の開催が難しい状況が続いており、協議会の運営も滞っている面があります。

しかし、このような中だからこそ、市民が安心して、満足できる在宅生活が続くため、いちき串木野市の総力をあげて、在宅・介護連携体制をさらに強固なものへ構築していく必要があると思われれます。田畑市長自ら先頭となったいちき串木野市、伊集院保健所などのさらなるサポートを期待し、リモート会議などを駆使し、皆さんとの連携を深め、いろいろな問題を忌憚なく議論できる、この協議会をしっかりと継続していくことが大事になって参ります。

市民の皆さんが、安心して過ごせる地域作りをますます進めていけるよう、皆さん、一緒に汗を流していきましょう。今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和2年度	活動項目	内容
4月	資源マップ改訂版作成配布	平成30年度に作成したいちき串木野市医療・介護資源マップ最新情報を掲載した改訂版を増刷し地域関係機関へ配布しました。
6月	包括支援センターとのミーティング	今年度事業取り組み計画や進め方についての話し合いを行っています。
7月	看護管理者交流ミーティング	地域医療機関との情報共有をどのように行い医療機関との交流会を進めて行くかのミーティングをしています
8月	推進委員連絡協議会書面開催	令和2年度の事業取り組み計画案資料及び推進委員名簿等送付紙面にて報告、了承確認
8月	看護管理者交流会	8月24日リモートでの看護管理者交流会開催 感染管理認定看護師による感染対策の講演会

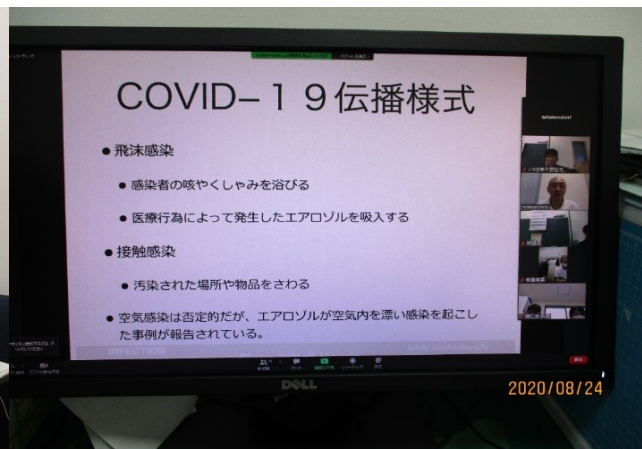
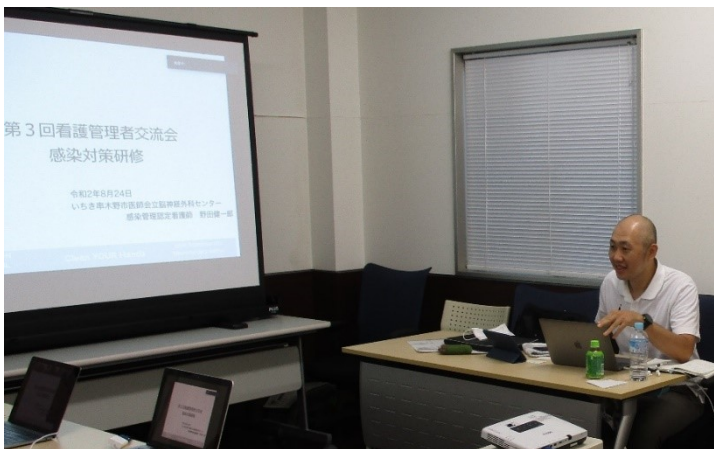
## 第3回看護管理者交流会令和2年8月24日開催

講演 「感染対策について」

講師 いちき串木野市医師会立脳神経神経外科センター  
感染管理認定看護師 野田健一郎氏

全国的な新型コロナ感染症の影響であらゆるイベントや集会、研修が延期、中止せざる負えない状況となり連携、情報共有の手立てに困惑する中、画期的に利用されているリモートスタイルでの開催となりました。

令和2年度第1回目として、新型コロナ感染症も踏まえ、テーマを”感染予防対策“として感染管理認定看護師による”感染対策について“講演を行い、意見交換を行い地域医療機関で情報共有を図りました。



新型コロナウイルスについての基本的な知識や院内委における感染予防や対応策など最新の情報を交えてお話やゾーニングの基本的な考え方を動画でより分かりやすく伝えて頂きました。

意見交換では、現場の対応で疑問に思う事などの質問に加えて、検査実施状況、防護具の装備や備蓄状況についての情報共有を行いました。また、感染を予測した患者隔離・PCR検査状況、検体採取扱い等についても実施状況を踏まえた注意事項について情報提供など、新型コロナウイルスに関する様々な情報が共有され有意義な研修会となりました。最後に新型コロナ陽性患者を対応した医療機関からはクレーム電話や職員やその家族に対する差別など風評被害を実感した思い等も伝えて頂き、自分たちが、正しい知識を認識し、地域住民へ繰り返し伝えて行くことが、風評被害を少しでも小さくする手立てとなることも合わせて考える機会となりました。